

令和5年11月27日開催  
調 査

# 第6次福島町総合計画策定 調査特別委員会資料

○調査事件 第6次福島町総合計画策定に関する調査について

企 画 課



## 第6次福島町総合計画の策定について

### 1 政策等調書・総合計画事業進行管理表の調整について

1 1月6日開催の調査特別委員会の中間報告にある政策等調書・総合計画事業進行管理表について、「活動指標名と各年度の目標及び実績」の記載内容の統一性を確保するため、別紙1及び別冊1のとおり整理しております。

### 2 目標とする指標の数値・設定の考え方の見直しについて

中間報告書において、再度、検討が必要との意見のありました項目については、次のとおり整理しております。

#### ① 岩部クルーズ乗船客数の設定数値について

令和4年度の実績を勘案して設定しているが、天候不順等で乗船できなかった人数も入れると予約者数は2千人を超えているとのことであり、設定の考え方としてどう目標値を上げていくかの検討が必要であり、指定管理者制度を導入していることから、企業の意欲を高めるようなインセンティブを考慮し検討する必要もあると思慮する。

→ 乗船料金については、価格の上限を5千円までとしておりますので、指定管理受託事業者からの申し出に応じて協議してまいります。なお、指定管理受託事業者へ確認したところ、当面の間は、現状の料金3千円を維持する方向との回答をいただいております。

目標とする指標	実績値 (R 4 実績)	令和6	令和7	令和8	令和9
岩部クルーズ乗船客数 (人)	1,809	1,800 2,000	1,800 2,000	1,800 2,000	1,800 2,000

#### ② 吉岡温泉の年間利用者数の目標設定について

吉岡温泉の年間利用者数の目標設定については、現状維持となっているが、来年度は新たな施設となることから、町外から人を呼び込むことも考慮し検討する必要があると思慮する。

→ 現在、建設している新たな温泉施設で想定された入館者数に目標値を置き換えています。目標値を達成できるよう、指定管理受託事業者と連携を図りながらサービスの向上及びPR活動に努めてまいります。

目標とする指標	実績値 (R 4 実績)	令和 6	令和 7	令和 8	令和 9
吉岡温泉の年間利用者数 (人)	56,934	<del>60,000</del> 65,000	<del>60,000</del> 65,000	<del>60,000</del> 65,000	<del>60,000</del> 65,000

③ コミュニティ活動支援事業数の目標値について

コミュニティ活動支援事業数の目標値について、現状維持となっているが、実施町内会が固定化されていることが憂慮されるので、町内会連合会等と相談しながら広げて行く方向で検討されたい。

→ 現在、利用している団体は、吉岡 3 町内会と丸山団地町内会の 2 団体となっています。町では、毎年、全町内会に活用の周知は行っていますが、どの町内会も高齢化などの理由で活動が縮小傾向にあります。

来年度以降の事業実施に向け、再度丁寧かつ積極的な周知を行うこととしますが、大幅な増加は見込まれないと予想されるため、1 団体の増加目標として目標値を置き換えています。

目標とする指標	実績値 (R 4 実績)	令和 6	令和 7	令和 8	令和 9
コミュニティ活動支援事業数 (件)	2	<del>2</del> 3	<del>2</del> 3	<del>2</del> 3	<del>2</del> 3

【別紙 1 及び別冊 1 参照】

### 3 第 6 次福島町総合計画実施計画 (案) について

中間報告書において、さらに検討を進めるよう、意見のありました事項について、次のとおり考え方を整理しております。

① 青函トンネル記念館屋外展示物解体撤去事業

老朽化に伴い撤去・解体予定とのことだが、当時の記録を伝える貴重な物であり、これまでの保管状況を検証し、継続して展示していける方策を検討されたい。当施設は第 2 青函トンネル構想実現に向けて情報発信する大きな起点となるので、構想等の展示を充実させ、観光客に対し職員がガイドとして構想の内容等をしっかり説明できるような研修等の体制についても検討されたい。

→ 屋外展示物の「くろしお号」については、特に貴重な展示物と認識しておりますので、寄贈いただいた北大水産学部と協議のうえ、今後の展示について協議を進めているところです。

また、第2青函トンネル構想の実現に向けた情報発信については、来年度のツアーガイドに構想の内容を説明する場を設けるなど、それぞれの担当課が連携して対応してまいります。なお、個人観光客用にA4用紙1枚程度に第2青函トンネルの必要性をまとめた資料を配布し、来館者への情報発信に努めてまいります。

② 教育用コンピュータ等整備事業

現在使用しているタブレット端末は、家庭へ持ち帰っての利用が多い状況から破損・紛失等の可能性があるが、その対応について責任の所在がはっきりしていない。機器更新計画の実施にあたっては、その点について整理し対応（賠償保険等）を検討されたい。

→ 機器の破損・紛失等について、一定のルールを整理（賠償保険等）いたします。

③ 福島町青少年交流センターゼロカーボン・モビリティ導入事業

町が脱炭素を進めるにあたって、具体的な事業として青少年交流センターに太陽光・EV車を導入することについては、関連性が理解しづらく、施設職員の公用のためであればゼロカーボンに拘る必要はないと考えるので、ゼロカーボンに関連した町全体の事業計画の中でバランスを見ながら進めるべきと思慮する。

→ 令和6年度策定予定の脱炭素戦略計画（仮称）において、町全体の事業計画を策定することを考えているため、当該事業についても関連性を計画内で位置づけ、実現に向けて関係機関と調整を進めてまいります。

④ 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震における津波避難緊急事業

当該事業については冬期間の対策が主になっているが、災害はいつ起こるか予測できないことから、夜間に災害が起こった際の対応、懐中電灯等の備品についても改めて検討されるよう思慮する。

避難場所については、過去に熊による被害があった場所も指定されていることから、新たな場所の選定、有害鳥獣への対策についても検討する必要があると思慮する。

→ 高台避難所に設置予定の備蓄倉庫については、夜間の避難を想定し、懐中電灯などを備えるとともに、クマ避けスプレーなどをはじめとするクマ対策用品なども備蓄し、有害鳥獣対策についても今後、検討してまいります。

⑤ SDG z（全体意見）

SDG s への考え方が6月に行った調査から後退していると感じる。町民に対しSDG s への理解が進むよう別建てで書き込むなどPRの方法について検討されたい。

→ SDG s の理解が進むよう来年発行の広報において、特集記事として掲載を予定しています。

⑥ 政策等調書・総合計画事業進行管理表について（全体意見）

以前から指標等の設定がなじまない事業等が見受けられることから内容の見直し等が必要と指摘しており、様式の簡略化も含めて第6次総合計画の策定に合わせて行うとしていたが、今回の資料を見ても見直しはされていない。計画を策定している今がチャンスだったことを考えると非常に残念であり、今後、さらに人口減少が想定されることから、事務全般について省力化することは、必須の課題でもあり、引き続き見直しに向けた検討を積極的に進められたい。

→ 政策等調書・総合計画事業管理表については、令和6年度からのスタートに合わせて見直しすることが出来なかったため、来年度以降、様式の簡略化を含めた見直しを進めてまいります。

4 第6次福島町総合計画基本構想及び基本計画について

これまでお示しした第6次福島町総合計画基本構想及び基本計画をとりまとめましたので、別冊2のとおり整理しております。

また、町長による巻頭の「まえがき」を追加しております。

【別冊2参照】

5 第6次福島町総合計画実施計画について

第6次福島町総合計画実施計画（前期実施計画）をとりまとめましたので、別冊3のとおり整理しております。

なお、現在とりまとめた実施計画については、令和5年8月時点の内容となっております。令和6年度当初予算に係る部分などで金額の変更が生じた場合は、令和5年度福島町議会定例会3月会議において、計画変更する予定となっておりますので、ご理解のほどよろしくお願い致します。

【別冊3参照】

## 6 今後のスケジュールについて

第6次福島町総合計画策定に向け、今後のスケジュールは次のとおりとなっております。

日 程	対 象	内 容
令和5年 11月30日	審 議 会	基本計画(案)、実施計画(案)の諮問
12月中旬～ 令和6年 1月中旬	町 民 参 画	パブリックコメント (約1ヶ月)
令和6年 1月下旬	策定委員会 作 業 部 会	パブリックコメント意見等の確認
令和6年 2月上旬	審 議 会	第6次福島町総合計画最終案の審議・答申
令和6年 2月中旬	議 会	定例会2月会議に上程